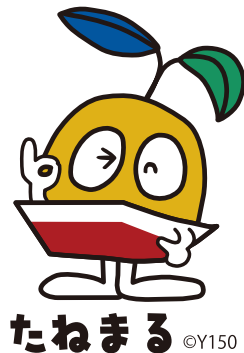


創発カワラバン



ヒルサイドエリアY150つながりの森は2009年7月4日(土)～9月27日(日)開催!

会場:横浜動物の森公園(ズーラシア隣接地区) 主催:(財)横浜開港150周年協会

vol. 17

たねまる ©Y150

出展トライアル目前! 準備も佳境に

2月28日、第5回の任意参加プログラムが実施されました。3月21日・22日の出展トライアルを見据えて、過去4回の任意参加プログラムで紹介された川嶋直さんの「KP(紙芝居プレゼンテーション)」、吉田理映子さんの「カブリケーション」に出展者が挑戦してみました。

カブリモノがあれば、場が和むということで試してみたのが、写真の通り。意外に難しかったのが「KP」。川嶋さんの手慣れた感じに、いつでも誰にでもできると思いきや「どのタイミングで、紙を張り出せばいいのか?」「マグネットはどっちの手に持てばスムーズ?」など、案外細かいところでとまどう人がいました。

とはいえ、失敗は成功の母。簡単だからいつでもできると思っていた「KP」も、ぶっつけ本番でやるより練習した方がいいと実感したようです。

(写真:村上友重)



3月3日、ヒルサイドにて現場見学会が実施されました。竹の伐採プロジェクトに参加した市民が伐採した竹を含む約1万5,000本を使っている会場に、メディアの方々が集まり、榎井正澄(まついまさみ)ディレクターによって案内されました。

横浜では放置された竹林が侵食して環境保全上の問題となっていることから、里山再生のために伐採竹を使用しましたが、環境負荷を考慮しての工夫は他にもいたるところに施されています。また、「開国博終了後、竹は製紙会社で加工してリサイクルします」と榎井ディレクターが教えてくださいました。

昨年4月に創発メンバーで会場視

察をしたときは駐車場だった場所に、柵田ができています。土壌調査のために植えられた小松菜が青々と育ち、土壌も良質なようです。柵田に限らず、会場のあちこちには様々な花が植えられています。次第に種類を増やして鮮やかな彩りで来場者を迎えます。現在は一面の菜の花となっている場所も、これからはどんな色のどんな花が顔を出すのか楽しみですね。

今は青々としている竹の海原も、時間が経つに連れ徐々に色が変化してきます。本番が始まる時、海原はどんな色合いで訪れる人々を迎えるのでしょうか。

(写真:高橋宗正)

完成直前! 刻一刻と姿を変えてゆく「竹の海原」は今

横浜、150年目の大博覧会。横浜開港150周年記念テーマイベント「開国博Y150」



横浜開港150周年記念テーマイベント

153日間の世紀を超える感動体験。2009.4.28～9.27 ※一部会場を除く

1859年(安政6年)の開国・開港から150周年を迎える、2009年。横浜は未来への「出航」をテーマに、その歴史や魅力が満載の博覧会「開国博Y150」を開催します。みなとみらい地区を中心としたメイン会場「ベイサイドエリア」、食やファッションなどの人気スポットが立ち並ぶ横浜駅周辺から山下・山手地区の「マザーポートエリア」、自然豊かなズーラシア近隣に広がる「ヒルサイドエリア」(開催期間:2009.7.4～9.27)。「海」「街」「自然」が生きるこの3つのエリアから、未来を輝かせる夢の種をまくために、今、「開国博Y150」という名の船があなたを乗せて「出航」します。





様々なやりたいことを持って集まってきた創発メンバー。ここから始まり、広がっていくそれぞれの物語。

つながりの森の住人たち vol.1 つながりキーワード 未来の大人たちへ

横浜開港時から 五代にわたる ハマっ子です。

渡辺藤子さん(横浜市港南区)



違いを認める大事さを 高校生世代と考える

「人は違うからおもしろいと思うんです」と語る渡辺藤子さんは、定時制高校の音楽講師。祖父の祖父が横浜開港と同時に横浜で石炭商を始めたという五代続くハマっ子です。

日ごろ高校生と接するなかで、今の高校生は仲間から浮いてしまうのを嫌って人に合わせることに気を遣い、自分を出さ

ないようにしていると、渡辺さん

は感じています。「お互いの違いを認め合い、自分を信じる力があれば、これから人生は変わる。その大切さを伝えたい」と話す渡辺さん。高校生世代と一緒に、「お互いの違いを大事にできる方法」を創り出したいと考えています。

三月一日には、ひとつのモデルとして、仕草だけでイメージを伝えあうゲームを体験する講座を開きました(写真)。

いま大学四年生、 水の環境を研究中。 原点は沖縄の海。

伊禮 壘さん(横浜市鶴見区)



子どもたちに知って ほしい、雨水の汚れ

関東学院大学で水環境の研究をしている伊禮壘さんは、研究室の学生でつくる環境サークル「エコフレンド・カレッジ」の代表です。サークルの仲間とヒルサイドに出展します。これ

までは大学生の立場から環境問題にアプローチしてきましたが、横浜市民として関わりたいと市民創発への参加を決めま

した。大学で学んでいることを生かして、水の汚染をテーマに環境を考える出展を考えています。

対象は小学生・中学生です。「理科嫌いの子が増えていきますがそれは本の上ではばかり勉強しているから。体を動かして実験に参加した子どもが『楽しかった!』と感じて、家で家族と話し合ってくれれば嬉しい」と語ります。



(写真:高橋宗正[右上]/伊禮さん提供[左下])

「どうやって高校生世代につながりを広げていくか模索中」の渡辺さんですが、「いろんな人と出会うなかで、お互いが持っているものをとりかえつinaしながら、横浜発の新しいもの生み出していきたい」と本番にむけてスタートしています。



(写真:村上友重)

を見て育った目には、初めて見た横浜の海は「黒い」と感じたそうです。水への想いの原点には沖縄の海があります。「当たり前に蛇口から水が飲めるのも、汚れた水をきれいにする技術と、人々の協力があるからです。一人の力ではできないことも協力すれば実現できる。それを伝えたい」

出展タイトル Eco science project

現役の理系大学生が、水の大切さ、環境の大切さをワークショップ形式で伝えます。雨水に何が入っているのかを学んだり、汚れた水を濾過して飲むようにしたり、水の味に違いがあるのはなぜかを実験したり、参加者自身が体験する企画です。

SCHEDULE & INFORMATION 8月4日(火)~8月10日(月)、「竹の海原」内のつながりの広場にて連日開催。

出展タイトル とりかえっこしましょ チャ×3

お互いの違いを大事にできるゲームを創り出し、高校生世代が安心して気持ちを伝えあうイントロにします。みんな違っていいからこそおもしろいことができるということを、これから半年かけて講座や話し合いで形にし、ヒルサイドのステージで展開します。

SCHEDULE & INFORMATION 9月22日(火・祝)10時~、「竹の海原」内の「つながりのステージ」にて開催。

ヒルサイドエリアの環境配慮①

ノン・コンクリートパビリオン「竹の海原」



●ノン・コンクリート建築とは?

リースした鉄板を利用した基礎を採用し、建物の基礎を含めコンクリートを使用しない工法です。(鉄板は撤去後に再利用します。)

環境配慮ポイント… 建築物の多くは、地面に穴を掘ってコンクリートの基礎をつくり、そこに柱を建てます。コンクリートは石灰石がセメントになる際に多くのCO₂が発生し、さらに運搬時のCO₂に加え、基礎をつくったり、取り壊したりするときの建設機械を動かすことでCO₂が発生します。リース鉄板を利用すると、製造時のCO₂発生を抑えることができ、さらにコンクリート基礎よりも工期が短く、簡便につくることができ、運搬・建設・取り壊しの時のCO₂発生をより少なくできます。



▲鉄板基礎上に鉄骨柱が建つ

ヒルサイドエリアY150つながりの森は対話・参加・体験のゾーン

ヒルサイドY150つながりの森は2009年7月4日(土)~9月27日(日)開催! <http://hill.yokohama150.jp>

横浜で伐採した竹で作る、日本最大級の竹の大屋根「竹の海原」が会場中央に出現します。ここでは市民自らが中心となって企画出展をする〈市民創発プロジェクト〉が展開されます。自然あふれる会場で、トークショー、ワークショップ、パフォーマンスなど、さまざまな参加体験ができるプログラムをご用意しています。

もっと詳しい情報はWEBへ

Y150つながりの森

検索



編集・発行元:ヒルサイド市民参加事務局(2009年3月15日発行)

お問い合わせ/(財)横浜開港150周年協会 ヒルサイド市民参加事務局 TEL:045-662-6482(月~金※祝日の場合を除く:10時~17時) E-mail:hill@yokohama150.jp

本紙の内容の一部または全部を無断で複製(コピー)することは、法律で定められた場合を除き、発行元の権利の侵害になります。